KPI進捗一覧（2026/10/30更新）

対象範囲はニッポンハムグループ全体。一部異なる箇所については、その都度、対象範囲を明記しています。

➢マテリアリティに関する目標と進捗

マテリアリティ	課題	施策	目指す姿	達成年度	進捗		
					2023 年度結果	2024 年度結果	2025 年度結果
たんぱく質の 安定調達・供給	畜肉の安定調達・供給	・畜肉の安定した供給量の拡大 ・疾病発生の未然防止への継続的取り組み	国内産畜肉の販売数量伸長率 2023年度比 104%	2026年度	2024年度新設	103.0%	103.1%
	持続可能な畜産の実現	農家への支援・共創 -PIG LABO®、鶏生産事業における技術指導 -スマート畜産などの新たな技術の開発と活用					
食を通した豊かな生活への貢献	多様化するライフスタイルや価値観への対応	・多様なニーズに合わせた商品の開発、提供 ・笑顔あふれる食体験の提供 ・日本で培った知見を各国・地域に浸透	ハムソーセージ、加工食品の 主要コンシューマー商品のうち、 Mealin' Good対象製品を50%	2026年度	2024年度新設	19.5%	19.4%
	食課題解決への貢献	健やかなからだづくりに貢献する商品の開発、提供	海外加工品事業売上伸長率 2023年度比 200%	2026年度	2024年度新設	112.8%	133.8%
持続可能な 地球環境への貢献	気候変動への対応	化石燃料由来CO_2排出量削減 （Scope1、Scope2）	国内 2013年度比 29%削減	2026年度	21.3%減	24.1%減	32.4%減
			国内 2013年度比 46%削減	2030年度			
			海外 2021年度比 17%削減	2026年度	8.4%減	5.7%減	5.9%減
			海外 2021年度比 24%削減	2030年度			
		家畜由来温室効果ガス削減 自社農場での施策展開	定性情報	-	大学との共同で研究実施	共同研究推進	共同研究推進中
	省資源の推進	プラスチック使用量削減 ※対象範囲：容器包装リサイクル法対象商品のうち、化石燃料由来の包装資材	国内　2013年度比 17%削減	2026年度	2024年度新設	34.2%減	38.1%減
			国内　2013年度比 20%削減	2030年度			
新たな価値の創出	食とスポーツによる新たな価値の提供	北海道ボールパークFビレッジにおける、食品事業とスポーツ事業を核とした街づくりへの取り組み	Fビレッジ内の施設・サービスの充実による来場者数及び定住人口の増加 ※来場者数：1月～12月で計算 ※定住人口：2030年度北広島市（2023年10月比）	2030年度	2024年度新設	来場者数 約419万人	来場者数 約459万人
					2024年度新設	定住人口 -	定住人口 -
	たんぱく質の可能性を広げる事業の創造	R&D強化による価値創造 さまざまなたんぱく質の可能性の探索	事業立ち上げと収益化	2030年度	2024年度新設	事業戦略と紐づいた全社R&D戦略を策定	R&D戦略に基づき、全社注力テーマを選定、事業化促進支援を実行
			商品化に向けての技術確立	2030年度	2024年度新設	麹たんぱく質や細胞性食品の研究を進める	麹たんぱく質や細胞性食品の研究を進める／ 畜産由来素材を原料に医療機器を開発するスタートアップ1件に出資
挑戦する 組織風土の醸成	変革型経営人財の育成、獲得	役員評価項目を見直し、経営者サクセッションプランの強化	変革、挑戦、従業員エンゲージメントの取り組み進捗	2030年度	2024年度新設	1. 戦略的な採用・選抜・育成 ・母集団形成 ・選抜・育成の仕組み強化	1. 戦略的な人財獲得・育成 ・母集団形成 ・海外拠点研修実施
	多様な人財の活躍推進	一人ひとりの挑戦を促し認める仕組みの強化、浸透 多様な個が尊重され、生き生きと活躍できる環境づくり	重点管理項目の進捗	2030年度		2. 個の成長促進 ・成果に応じた適正評価・処遇 ・キャリア自律・キャリア充実 ・海外人事制度の一部改定”	2. 挑戦する組織風土醸成への取り組み深化 ・成果に応じた適正評価・処遇 ・新表彰制度「チャレンジ賞」の実施

➢中長期環境目標と進捗

重点項目	施策	目指す姿(目標)		達成年度	進捗 2023年度結果	進捗 2024年度結果	進捗 2025年度結果
温室効果ガス	エネルギーの脱炭素化推進 家畜由来温室効果ガスの削減 共創による脱炭素削減策の創出	化石燃料由来CO_2排出量削減 (Scope1、Scope2)	国内 2013年度比 29%削減	2026年度	21.3%減	24.1%減	32.4%減
			国内 2013年度比 46%削減	2030年度			
			海外 2021年度比 17%削減	2026年度	8.4%減	5.7%減	5.9%減
			海外 2021年度比 24%削減	2030年度			
		家畜由来温室効果ガス削減 自社農場での施策展開		2030年度	大学との共同で研究実施	共同研究推進	共同研究推進中
		サプライチェーン排出量(Scope3)削減 国内目標設定		2026年度	2025年度新設	2025年度新設	目標設定検討中
		カーボンニュートラルを目指す		2050年度	2025年度新設	2025年度新設	施策推進中
プラスチック	3R(リデュース、リユース、リサイクル)+Renewable(持続可能資源の利用)の取り組み推進 共創による廃棄プラスチック削減	石油由来の容器包装プラスチック使用量の削減 (容器包装リサイクル法対象商品)	国内 2013年度比 17%削減	2026年度	2024年度新設	34.2%減	38.1%減
			国内 2013年度比 20%削減	2030年度			
		サプライチェーンを通した石油由来プラスチック最小化		2050年度	2025年度新設	2025年度新設	産官学連携検討中
水	水使用量の最小化 水ストレス地域でのリスク低減	用水使用量原単位削減	国内 2019年度比 5%削減	2030年度	0.7%減	0.7%減	0.3%増
			海外 2021年度比 5%削減	2030年度	2.4%減	15.6%減	24.7%減
		水ストレス地域での水リスク低減策実施		2030年度	2025年度新設	2025年度新設	モニタリングの継続
		水使用量の最小化及び水ストレス地域でのリスク低減		2050年度	2025年度新設	2025年度新設	検討に着手
		主要なサプライチェーンでの水リスクへの対応		2050年度	2025年度新設	2025年度新設	検討に着手
食品ロス	培った食品ロスを発生させない技術のさらなる向上 共創による食品ロス削減策の創出	食品ロス削減	国内 2020年度比 20%削減	2030年度	2025年度新設	2025年度新設	18.3%減
		サプライチェーンを通した食品ロス最小化		2050年度	2025年度新設	2025年度新設	戦略検討中
廃棄物	資源投入と最終処分の抑制 地域での循環モデルの創出	資源リサイクル率向上	国内 98%以上	2030年度	2025年度新設	2025年度新設	98.5%
		地域での連携による循環利用の持続可能な発展		2050年度	2025年度新設	2025年度新設	戦略検討中

➢人財に関する目標と進捗 ※1

ー	ー	施策	測定指標	達成年度	進捗		
					2023 年度結果	2024 年度結果	2025 年度結果
個の成長		挑戦する組織風土醸成※2	従業員サーベイ好意的回答率 70%以上	2030年度	66.5%	68.8%	58.0%
		働きがい向上※3	従業員サーベイ好意的回答率 70%以上	2030年度	66.7%	66.9%	59.0%
組織の成長		戦略的な採用	キャリア採用比率 25%以上※4	2030年度	8.9%	26.5%	20.3%
DE&I		女性活躍の推進	女性管理職比率 20%以上	2030年度	10.7%	12.0%	12.7%
			女性監督職以上比率 35%以上	2030年度	24.1%	25.2%	26.5%
		障がい者雇用の推進	障がい者雇用率 2.7%以上	2030年度	2.6%	2.6%	2.9%
		総労働時間の削減	総労働時間 1,870時間以内	2030年度	1,968時間	1,948時間	1,944時間
			時間外労働時間 200時間以内	2030年度	225時間	204時間	200時間
		こころとからだの健康	健康診断再検査実施率 100%	2030年度	83.5%	80.1%	80.9%
			喫煙率 12%以下	2030年度	25.6%	22.6%	23.4%

※1 日本ハム㈱が対象

※2 2025年度より名称を変更(挑戦できる仕組みづくり→挑戦する組織風土醸成)。また対象を正規従業員から全従業員に拡大。

※3 2025年度より名称を変更(やりがい向上の仕組みづくり→働きがい向上)。また対象を正規従業員から全従業員に拡大。

※4 2024年度に達成基準を上回ったため、2025年度4月から変更(15%以上→25%以上)

➢アニマルウェルフェアに関する目標と進捗

-	-	-	施策・目標	達成年度	進捗		
					2023 年度結果	2024 年度結果	2025 年度結果
			国内全農場※の妊娠ストールの廃止(豚) 100%	2030年度	9.5%	23.7%	25.7%
			国内全農場・処理場※への環境品質カメラの設置	2024年度	牛・豚100% 鶏94%	100% (達成)	100% (達成)
			国内全処理場内の係留所※への飲水設備の設置(牛・豚)	2023年度	牛100% 豚100%	100% (達成)	100% (達成)

※ニッポンハムグループが資本を過半数保有する企業が対象

➢サプライチェーンマネジメントに関する目標と進捗

-	-	-	施策・目標	達成年度	進捗		
					2023 年度結果	2024 年度結果	2025 年度結果
			重要な一次サプライヤー※1への方針周知とSAQ実施率100%	2030年度	対象51社 実施率100% ※1	対象463社 実施率100% ※2	-
			追加調査実施企業数※3	-	0社	0社	0社
			重要な二次サプライヤーへの方針周知とSAQ実施	2030年度	2026年以降に実施	2026年以降に実施	実施検討中
			調理等に使用するパーム油を持続可能なパーム油へ100%切り替え※4	2030年度	戦略策定	26.4%※5	26.1%※5

※1 重要なサプライヤー:取引金額量が大きく、代替不能な原材料、包装資材、家畜、飼料などを納入していただくサプライヤーと定義。2022年度および2023年度に分けて、対象サプライヤーへ調査を実施。

※2 重要なサプライヤー:取引金額量が大きいサプライヤーと定義し、2024年度に対象サプライヤーへ調査を実施。

※3 SAQにて追加実施が必要と判断された場合の件数

※4「100%切り替え」には、RSPOの認証モデルであるブックアンドクレーム方式によるクレジット購入を含む

※5 ブックアンドクレームにて購入

➢東京栄養サミット2021に関する目標と進捗

項目	-	施策	目指す姿(目標)	達成年度	進捗		
					2023 年度結果	2024 年度結果	2025 年度結果
食物アレルギ-関連		関連商品の出荷金額拡大	出荷金額40億円	2030年度	14.0億円	27.3億円	28.5億円
		新たに表示が義務化される項目の検査キット発売	新項目の検査キット発売	2030年度	開発中	開発中	開発完了
たんぱく質摂取における選択肢の拡大		植物由来のたんぱく質商品の拡充拡販	出荷金額100億円	2030年度	20.4億円	20.2億円	2.8億円
		新たな代替たんぱく質の研究	新たなたんぱく質の研究を商品化(アイテム数)	2030年度	106億円 97アイテム	18アイテム	21アイテム
超高齢社会における健康寿命延伸商品の開発と普及		認知機能を改善する素材(特許取得済)の商品化	年間300万食相当の供給	2026年度	194万食相当	247万食相当	83万食相当

➢更新履歴

更新日	対象の表	更新箇所	更新内容
2026/10/30	人財に関する目標と進捗	健康診断再検査実施率	2025年度実績を80.1%→80.9%に修正
2026/10/30	人財に関する目標と進捗	従業員サ-ベイ好意的回答率	2025年度より、測定指標を変更したことに伴い、目標値を見直し